

フォローアップ対象年度	令和5年度	高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校
-------------	-------	---------	------------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の高専

該当無し	☒ チェック
------	--

- ii) 学校教育法第123条で準用する第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている高専

該当無し	☒ チェック
------	--

- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた高専

該当無し	☒ チェック
------	--

- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付けられている高専

該当無し	☒ チェック
------	--

- v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する高専

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学期において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック					
⑪	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校
-------------	-------	---------	------------

⑫

文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A 1 教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。			
認定を受けている		■ チェック	
認定を受ける計画が進んでいる		□ チェック	

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
現在、高専5IGEAR5.0事業(農林水産分野)の中核拠点校として、農業・水産DXを推進している。「5G・IoT活用、海洋DX推進に向け連携協定」をKDDI、三重県、三重大等と締結しており、情報通信研究機構から「ブルーカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取組」に向けた取組を委託研究している。また、中電CTLとも包括連携を締結し、「黒のいのち色落ち早期警戒情報」を発信。三重県と連携して生研機構委託によるAIを利用した柑橘類の灌水システムの開発に取組むなど、十分な実績がある。本校は商船高等であり、現在、海上輸送において急速に進んでいるDXの推進、自律運航などのデジタル・スマートシップ等などについて、大手海運企業やGX,DXを進める港湾をもつ自治体と連携して全学的にも高度情報人材の育成に発展的に取組むつもりである。	GEAR5.0事業(農林水産分野)の中核拠点校として、農業・水産DX推進の取組みを継続して実施した。「5G・IoT活用、海洋DX推進に向け連携協定」(KDDI、三重県、三重大等)に基づく取組、「ブルーカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取組」(委託研究：情報通信研究機構)についても継続実施した。「黒のいのち色落ち早期警戒情報」の発信（包括連携：中電CTL）や三重県と連携して生研機構委託によるAIを利用した柑橘類の灌水システムの開発も継続して取り組んでいる。上記取組みは、令和6年度も継続していく。また、本校練習船「鳥羽丸」の代船建造が開始された。令和6年度に最新の設備を備えた練習船として就航する。遠隔操船等が可能なデジタル・スマートシップとなり、DXの推進、自律運航など高度情報人材の育成に活用する。GX,DXを推進する大手海運企業や港湾をもつ自治体との連携について意見交換を開始している。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
これまで近隣小中学校への出前授業・公開講座としてプログラミング講座などを行ってきたわけではなく、U16プログラミングコンテスト三重県大会を本校が主体となって運営し、小中学校の子どもの発表の場を提供してきた。 今年度から市内の小中学校では、1月1日のクラブ活動として「プログラミング講座」を実施している。これは、小中学生が課外活動として取組みたいとして希望が多かったことから実現している。このような活動を県内の小中学校で多く実施していく。本校の在校生が出身校の講師として対応することで、多くの小中学校での実践が可能になる。OECDの学びの羅針盤2030として、1. 新たな価値を創造する力。2. 対立やジレンマに対処する力。3. 責任ある行動をとる力があげられている。これらはAARサイクルとともに各項の切口を通じて早期から情報工学に主体的に触れる機会を与えていく。	令和5年度は市内の同一小中学校で合計6回のプログラミング講座を実施した。その他にも市内外の小中学校に「U16プログラミング講座」を合計13回実施し、いづれも本校の在校生が講師や補助を務めた。それぞれの講座での開催アンケートを参考に、方法や内容を改善しAARサイクルを回している。また、U16プログラミングコンテスト三重県大会を本校が主体となって開催し、新たな価値を創造するような作品を出展してもらい、発表の場を設けた。 令和6年度も継続・拡大して実施していく。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生をはじめ多様な学生を受け入れるため、コンセント付更衣室や化粧室、くつろぎの場等の施設の充実を図る。在学生が実施する女子中学生向けの講座等を実施、進学説明会等では多様な学生向けのブース設置するなど、女子学生を積極的に受け入れる。高専GCONなどへの取組組みは継続していくとともに、これらの活動をSNS等で積極的に発信する。社会人向けには、リカレント教育を実施する。連携協議会の企業からは、新入社員研修や学び直しについてAI/IoTなど情報系分野の要望があり、科目履修生として受け入れを進める。本校では、オンラインでの授業配信実績も多数あることから、企業にいがらの受講も可能にする。国際寮（多文化交流学生宿舍）の設置を計画要求しており、留学生と共に生活する男女日本人学生を増加させる。新設コースの国内外外学生を入学させてグローバルなコミュニケーションを図る環境を用意する。	オープンキャンパスにおいて女子中学生を対象として「女子学生特集」と題した日程を組み、女性教員による引率・説明、女子学生によるコンテスト活動の発表やブースでの説明を実施した。また、通常の授業を中学生・保護者に見てもらえるように、オープンキャンパスとは別の通常授業日に授業・部活動見学ツアーを2日間の午前と午後の合計4回実施した。 高専GCONでは本年度、豊田高専との連合チームで出場、鳥羽市で大量に発生する産業廃棄物である「杜鰈殻」を瀬戸市が得意とする産業の技術を利用して「タイル化」することでサワで活用可能な技術を発表し、最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞した。 SNSでの発信は積極的に実施しており、令和5年度はInstagramとXの学校公式アカウントを開設し、学生の日常風景やコンテストの結果などを配信した。 社会人向けのリカレント教育については、公開講座として2件、出前授業として1件を令和5年度に実施した。連携協議会の企業からは、新入社員研修や学び直しについてAI/IoTなど情報系分野の要望があり、科目履修生として受け入れを令和6年度から進める。本校では、オンラインでの授業配信実績も多数あることから、企業にいがらの受講も可能にする。 国際寮については引き続き要求中である。	女子学生をはじめ多様な学生を受け入れるため、コンセント付更衣室や化粧室、くつろぎの場等の施設の充実を図る。

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
三重大学大学院工学研究科情報工学専攻においても、本専攻での定員増を検討しており、本校の専攻科を修了した学生がさらに高度な学修を希望する際の受け皿となる。上述した海洋DXの推進事業において、同大学物質資源学科とは連携を始めており、今後は本校卒業生が三重大学の修士・博士の学生として研究を継続して進めていく素地となる。 また、GEAR農林水産業において、函館高専、一関高専、和歌山高専、阿南高専と連携した農林水産業のDX推進に取り組んでいる。すでにウニの陸上養殖や柑橘栽培でAI/IoT等をフル活用しており、今回の高度情報人材育成を進めることで、これらの社会実装・人材育成が加速する。	令和6年3月に本校と三重大学において、三重大学大学院修士課程までの教育研究を前提とした協定「三重大学工学部・鳥羽商船高等専門学校連携教育プログラム」を締結し、本校専攻科と三重大学工学部の両方に在学することが可能になり、本校学生が三重大学の大学・大学院の学生として研究を継続して進めていくことができるようになった。 また、海洋DXの推進事業においては三重大学大学院生物資源学専攻科のみならず、鳥羽市、鳥羽水族館等も含めて「伊勢志摩海洋教育研究アライアンス」を締結し、研究・教育で連携を進めている。 さらに、GEAR農林水産業においては、引き続き函館高専、一関高専、和歌山高専、阿南高専と連携して農林水産業のDX推進に取り組んでいる。令和5年3月には本校で「GEAR農水フォーラム in 鳥羽」で学生によるビジネスプラン発表会、令和6年3月には東京の芸術総合センターで「GEAR 5.0 農水シンポジウム 2023」を実施することで、社会実装を通じた高度情報人材育成を進めている。	

⑦ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A 1 教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和4年度にリテラシーレベル認定済み。 令和5年度に応用基礎レベルの認定へ申請予定	令和4年度、リテラシーレベル認定済み。 令和5年度、応用基礎レベル認定済み。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校
-------------	-------	---------	------------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の高専

該当無し	☒ チェック
------	--

- ii) 学校教育法第123条で準用する第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている高専

該当無し	☒ チェック
------	--

- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた高専

該当無し	☒ チェック
------	--

- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付けられている高専

該当無し	☒ チェック
------	--

- v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する高専

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学期において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック					
⑪	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校
-------------	-------	---------	------------

⑫	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A 1 教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。		
	認定を受けている	☒ チェック	
	認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック	

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
現在、高専院IGEAR5.0事業(農林水産業分野)の中核拠点校として、農業・水産DXを推進している。[5G・IoT活用、海洋DX推進に向け連携協定]をKDDI、三重県、三重大学と締結しており、情報通信研究機構から「ブルーカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取り組み」を委託研究している。また、中電CTIとも包括連携を締結し、「黒のりの色落ち早期警戒情報」を発信。三重県と連携して生研機構委託によるAIを活用した柑橘類の灌水システムの開発に取組むなど、十分な実績がある。本校は商船高等であり、現在、海上輸送において急速に進んでいるDXの推進、自律運航などのデジタル・スマートシップ等などについて、大手海運企業やGX、DXを進める港湾をもつ自治体と連携して全学的にも高度情報人材の育成に発展的に取り組むつもりである。	令和5年度から引き続きGEARS.0事業(農林水産業分野)の中核拠点校として、農業・水産DX推進の取り組みを実施した。また[5G・IoT活用、海洋DX推進に向け連携協定]（KDDI、三重県、三重大学）に基づく取り組み、「ブルーカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取り組み」（委託研究：情報通信研究機構）についても継続実施しており、GEARS.0の審査会にてこれまでの成果を報告した。「黒のりの色落ち早期警戒情報」の発信（包括連携：中電CTI）や三重県と連携して生研機構委託によるAIを活用した柑橘類の灌水システムの開発も継続して取り組んでいる。上記取り組みは、令和7年度も継続していく。また、本校練習船「鳥羽丸」の代船が新造され、令和7年3月に最新の設備を備えた練習船として就航した。遠隔操船等が可能なデジタル・スマートシップとなり、遠隔操船のための教室の整備、設備の導入を行った。情報系の学生、教員もこれらの設備を活用し、DXの推進、自律運航など高度情報人材の育成に活用していく。GX、DXを推進する大手海運企業や港湾をもつ自治体との連携について意見交換を行った。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
これまで近隣小中学校へへの出前授業・公開講座としてプログラミング講座などを行ってきたわけではなく、U16プログラミングコンテスト三重県大会を本校が主体となって運営し、小中学校の子どもの発表の場を提供してきた。今年度から市内の小中学校では、11回のクラブ活動として「プログラミング講座」を実施している。これは、小中学生が課外活動として取組みたいとして希望が多かったことから実現している。このような活動を県内の小中学校で多く実施していく。本校の在校生が出身校の講師として対応することで、多くの小中学校での実践が可能になる。OECDの学びの羅針盤2030として、1. 新たな価値を創造する力。2. 対立やジレンマに対処する力。3. 責任ある行動をとる力があげられている。これらはAARサイクルとともに各項の切口を通じて早期から情報工学に主体的に触れる機会を与えていく。	令和6年度は市内の同一中学校で合計8回のプログラミング講座を実施した。その他にも市内外の小中学校にてプログラミング講座を合計9回実施し、いずれも本校の在校生が講師や補助を務めた。それぞれの講座での開催アンケートを参考に、方法や内容を改善しAARサイクルを回している。また、U16プログラミングコンテスト三重県大会を本校が主体となって開催した。新たな価値を創造するような作品を出展してもらい、発表の場を設けた。令和7年度も継続・拡大して実施していく。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生をはじめ多様な学生を受け入れるため、コンセプト付更衣室や化粧室、くつろぎの場等の施設の充実を図る。在学生が実施する女子中学生向けの講座等を実施、進学説明会等では多様な学生向けのブース設置するなど、女子学生を積極的に受け入れる。高専GCONなどへの取り組みは継続していくとともに、これらの活動をSNS等で積極的に発信する。社会人向けには、リカレント教育を実施する。連携協議会の企業からは、新入社員研修や学び直しについてAI/IoTなど情報系分野の要望があり、科目履修生として受け入れを進める。本校では、オンラインでの授業配信実績も多数あることから、企業いながらの受講も可能にする。国際寮（多文化交流学生宿舎）の設置を計画要求しており、留学生と共に生活する男女日本人学生を増加させる。新設コースの内外内外の学生を入学させてグローバルなコミュニケーションを図る環境を用意する。	令和6年度においてもオープンキャンパスにおいて女子中学生を対象として「女子学生特集」と題した日程を組み、女性教員による引率・説明、女子学生によるコンテスト活動の発表やブースでの説明を実施した。また、通常の授業を中心に、午前と午後の2回実施した。高専GCONでは、「海女文化存続と海の資源回復に向けたウニの育養」として高齢化や過疎化の海女文化の継承など、地域の課題に対する技術的な取り組みを発表し、本職へ進出した。社会人向け教育としては、農業を対象とした画像解析に関する研修を1件行った。SNSでの発信は引き続き積極的に実施しており、InstagramやXにおいて学生の日常風景やコンテストの結果などを配信している。国際寮については引き続き要求中である。	連携協議会の企業からの新入社員の研修や学び直しについては、科目履修生としての受け入れには至っていない。企業からの実施科目のコースを踏まえ、オンラインでの授業配信などの環境を整備し、令和7年度での受け入れを進めていく。女子学生をはじめ多様な学生を受け入れるため、コンセプト付更衣室や化粧室、くつろぎの場等の施設については引き続き、充実するよう進めていく。

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
三重大学大学院工学研究科情報工学専攻においても、本事業での定員増を検討しており、本校の専攻科を修了した学生がさらに高度な学修を希望する際の受け皿となる。上述した海洋DXの推進事業において、同大学生物資源学科とは連携を始めており、今後は本校卒業生が三重大学の修士・博士の学生として研究を継続して推進していく素地となる。また、GEAR農林水産業において、函館高専、一関高専、和歌山高専、阿南高専と連携した農林水産業のDX推進に取り組んでいる。すでにウニの陸上養殖や柑橘栽培でAI/IoT等をフル活用しており、今回の高度情報人材育成を進めることで、これらの社会実装・人材育成が加速する。	本校と三重大学において、三重大学大学院修士課程までの教育研究を前提とした協定「三重大学工学部・鳥羽商船高等専門学校連携教育プログラム」を締結し、本校専攻科と三重大学工学部の両方に在学することを可能とした。本校学生が三重大学の大学・大学院の学生として研究を継続して推進していくことができるこの取り組みについて学生への説明会を行った。今後もこの取り組みを推進していく。海洋DXの推進事業においては三重大学大学院生物資源学専攻科、鳥羽市、鳥羽水族館等も含めて「伊勢志摩海洋教育研究アライアンス」を締結しており、研究・教育で連携を進めている。令和7年2月に伊勢志摩にある海洋・水産機関による研究成果発表会において「ブルーカーボン貯留量の自動算出システムの開発」についての報告を行った。さらに、GEAR農林水産業においては、引き続き函館高専、一関高専、和歌山高専、阿南高専と連携して農林水産業のDX推進に取り組んでいる。令和6年8月には一関高専で「GEARS.0農林水産分野 サマーキャンプ in 一関」で総業を主催し、たどササンプランの発表会に参加した。これらにより社会実装を通じた高度情報人材育成を進めている。	

⑦ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A 1 教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和4年度にリテラシーレベル認定済み。 令和5年度に応用基礎レベルの認定へ申請予定	令和4年度、リテラシーレベル認定済み。 令和5年度、応用基礎レベル認定済み。	

フォローアップ対象年度	令和5年度	高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校
-------------	-------	---------	------------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況
実施状況報告書留意事項（R6年度）	当初に計画していた既存校舎の教室・実験室の利用案が大幅に変更になるなど施設設備整備に遅れが生じている。今後の事業計画に支障がないように、早急に施設設備整備の見直しの方向性の検討等に取り組むこと。	既存校舎の教室・実験室の利用案の大幅変更等、施設設備整備に遅れが生じていた理由は、主に新営予定の5号館建設場所・規模の見直しを必要としたことによるものである。5号館新営に関しては、建設場所・規模を再検討し、令和6・7年度で詳細設計を、令和8・9年度に新営工事を行う予定である（計画変更承認申請提出準備中）。5号館新営計画の遅れにかかる教室の確保に関しては、既存校舎の一時的な活用及び教室改修を変更計画に組み込み確保するため、事業実施に支障はない。これらにより教室管理システムの既存校舎（教室・実験室）導入箇所が確定したため、令和7年3月までに導入を完了した。

高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
---------	------------	------	-------------------

2.情報系組織の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	入学者数等	入学定員 (A)	人	80	80	100																
		入学者数 (B)	人	84	80	100																
		女子学生数	人	14	8	23																
		社会人学生数	人	0																		
		留学生数	人	0	0	0																
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.05	1.00	1.00																
	収容定員等	収容定員 (C)	人	400	400	420																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数 (D)	人	412	401	423																
		編入学者数	人	5	8																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.03	1.00	1.01																
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	80	71																	
		就職者数	人	57	58																	
		進学者数	人	23	13																	
		その他	人	0	0																	
		進路不明	人	0	0																	
教員の状況	実務経験のある教員の 割合	教員数	人	10	10	15																
		授業科目の単位数	単位	23	22	84																

3.高等専門学校全体の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員 (A)	人	120	120	140																
		入学者数 (B)	人	124	122	141																
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.03	1.02	1.01																
	収容定員等	収容定員 (C)	人	640	640	660																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数 (D)	人	635	632	657																
		編入学者数	人	5	5	8																
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.99	0.99	1.00																

4.外部資金の状況（全学）

年度			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		70,649	50,775	***																

特記事項

学生の入学・在籍状況（収容定員）の編入学定員の0人とは若干名を意味している。
--